

ひとりごと

「自由」と「リスク」

社会人になって、休日の過ごし方の大切さを強く感じるようになった。仕事から離れられる貴重な二日間、1人でのんびり過ごしてもいいし、友達や同期と遊んでもいいし、真面目に自己研鑽につかってもいい。休日の過ごし方やその充実度が、その前後の週の精神状態や仕事へのやる気にも影響を及ぼす。週末に楽しみな予定があるとそれだけで1週間頑張ることができる。私は、少なくとも一つは人と会う予定を入れるようにしている。ここでは、先の週末に他省の同期を交えて見学に行った高齢者向け住宅で感じたことについて書いていきたい。

高齢者の方が最期までその方らしく生を全うできるよう配慮を尽くしたその施設で感じたのは、「自由」と「リスク」の天秤、上手くそのバランスを取ることの大切さだった。「リスク」を避けるため過度に「自由」を制約すると、高齢者の方の行動の自由が奪われ、自分でできていたはずのこともできなくなり、生きる力が失われていく。反対に、ある程度の「リスク」を許容し、ただ勿論その「リスク」が顕在化しないようサポート体制を整えた上で、本来の「自由」を当たり前享受してもらえ環境を整えると、高齢者の方々は見違えるように元気になるという。その施設では、介護する側の視点ではなく、そこで実際に生活する高齢者の方の視点に立った施設作りを行い(温かみのある木造建築や植木、アートの配置など)、高齢者の方自身の意思を尊重したサポート体制が整っていた(玄関の開放、地域の方との交流の促進、味と見た目に配慮した楽しみとしての食事の提供など)。高齢者の方が生き生きとお話しされ、交流される姿に感銘を受けた。

社会人になって5ヶ月経つが、一番学びになったのは、係員1人体制で仕事を担った先月1ヶ月であるように思う。補佐を除くと経験の浅い一年目職員しか係にいない状況は、それが短期間であっても組織にとってリスクになり得ると思う。しかしそこである程度の自由と責任を与えていただいたことで、自分の担う仕事の幅が広がるとともに、係長に頼りすぎず主体的に仕事に取り組む楽しさの一端を知ることができ、とても良い経験になった。

「自由」と「リスク」。相手の意思を尊重し可能性を信じて、「自由」を与えることの大切さ。従来の高齢者施設が高齢者を縛りすぎているように、もしかすると従来の学校も子供をカリキュラムや同調圧力で縛りすぎているのかもしれない。高齢者や子供といった社会的に不利な立場になり得る方々にも意思があり、可能性があり、享受すべき自由がある。休日に思い立って訪ねた高齢者向け住宅で、そんなことを考える機会をいただいた貴重な休日だった。

(N.Y)

「教育委員会月報 令和5年9月号 No.887」

- ・発行・著作 文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課
- ・〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2
- ・TEL:03-5253-4111 (代表)
- ・URL: <https://www.mext.go.jp>



文部科学省